

文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
平成 27 年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
実践的教育課程の企画手法と学習者主体の授業計画ができる研修モデルの実践および普及

インストラクショナルデザイン講座

新任教員編

《実施マニュアル》

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

目次

はじめに	- 3 -
第 1 章 指導要領と実証講座実施マニュアル	- 4 -
第 2 章 実証講座受講者アンケート	- 11 -

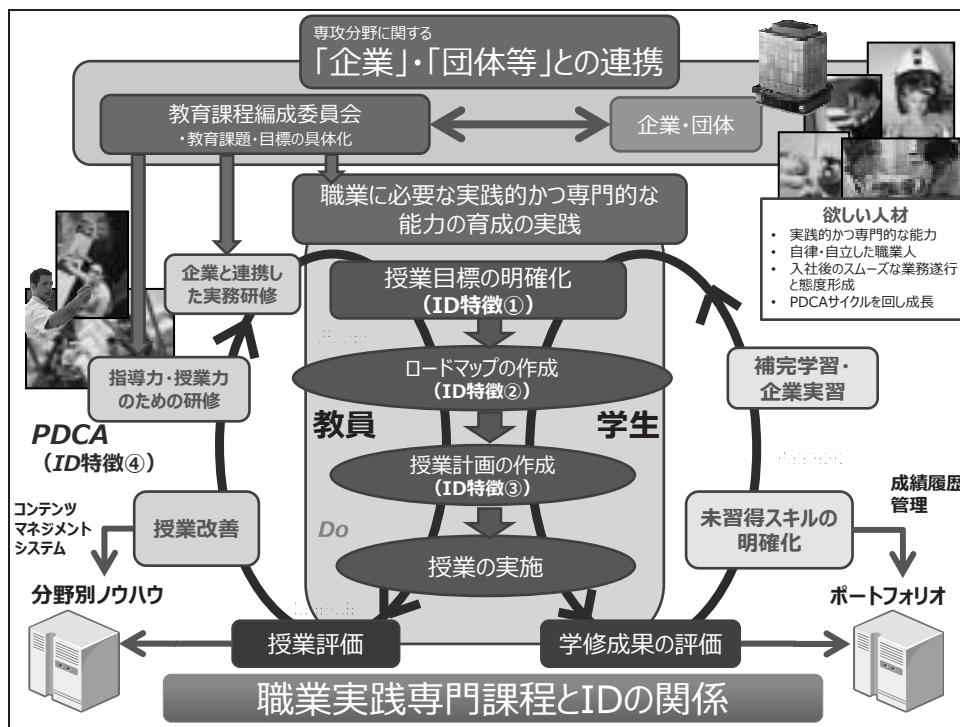
はじめに

この実証講座全体の目的は以下である。

職業実践専門課程として職業実践的教育を行う上で、企業・業界が求める汎用的な能力向上を行うための教育課程の編成や演習・実習の授業運営を行う教員のコアスキルとして、最も効果的かつ効率的な教育を設計・開発技法を習得するための研修プログラムを開発・実証する。

その下に、インストラクショナルデザイン分科会は職業実践専門課程における教育の質向上を図ることを考え、以下を講座の目的とした。

- ・ 職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成
- ・ 企業が求める知識・技術等を、学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザイン（以下 ID）を用いた体系的なカリキュラムの編成を行える教員の養成
- ・ 産学連携による多様な教育方法を活用し、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行える教員の養成
- ・ 教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成する



第1章 指導要領と実証講座実施マニュアル

実証講座 インストラクショナルデザイン講座 新任教員編	7 時間
実証講座 インストラクショナルデザイン講座 中堅教員編	7 時間
実証講座 インストラクショナルデザイン講座 講師育成講座	14 時間
E-learning	

【1. 科目名】

「インストラクショナルデザイン講座（新任教員編）」

【2. 担当講師】

株式会社ウチダ人材開発センタ講師

【3. 研修形態】

講義、演習、グループワーク等による

【4. 履修時間】

7時間

【5. 研修の概要と目標】

昨年度からの継続事業として、職業実践専門課程を担う教員のスキル向上を目的として講座を開発した。企業のニーズ（知識・技術等）を学生がより高い水準で習得できるようにインストラクショナルデザインを用いて、産学連携などの多様な教育手法も活用し、体系的なカリキュラムの編成を行い、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行えるように構成した。

当講座は、経験の浅い（概ね新任～3年目程度）を対象として、特に「わかりやすく効果的な授業（コマシラバス）」のストーリー設計ができるようになる内容とした。

事前に昨年度開発した「インストラクショナルデザイン及びアクティブラーニングを使いこなす教員養成研修モデルの開発・実証」-「インストラクショナルデザインテキスト」を熟読し、事前課題に取り組んでから講座に臨んだ。そのため、研修時は事前学習のテキストにあることは基本的に説明からは割愛した。

【6. 本講座の位置付け、受講後の効果】

本講座は前述の通り経験の浅い教員にまず1回の授業設計のスキルを学んでいただく。その後経験を積んでいただいた後、1回だけではなく1年のシラバスを設計できるように中堅教員向け講座を学んでいただく。最終的には、講師育成講座にて学内でインストラクショナルデザインの導入に関してリーダーシップを取り他の教員の授業設計を指導できるようになる。その3つのステップの1つ目のステップの講座である。

【7. 本講座の修了条件】

コマシラバス（指導方略表）作成演習で8割程度記述していること。

【8. 配布資料一覧】

- ①式次第（タイムテーブル）
- ②テキスト
- ③テキスト内ワークシート別紙（要望があれば配付）
- ④研修会アンケート用紙（記入後回収）
- ⑤事前課題（確認テスト）解答

【9. その他の配布物等】

- グループ札（A, B・・・）
- 模造紙 グループに2枚以上
- 模造紙用マーカー（黒、赤、青）グループに各2本ずつ

【10. 機材】

- 講師用PC（スライド投影用）
- プロジェクター、スクリーン
- （成果物が紙の場合）カメラ、またはカメラ付タブレット、PC ※成果物を撮影して、プロジェクターで投影（可能であれば）

- タイマー
- マグネットかテープ（模造紙を貼るため）
- マイクとスピーカー（広い教室の場合）

【11. 事前準備】

- 「インストラクショナルデザイン及びアクティブラーニングを使いこなす教員養成研修モデルの開発・実証」-「インストラクショナルデザインテキスト」熟読
<http://www.zsenken.or.jp/monka-itaku.id-and-al/pdf/result01-2.pdf>
- 事前課題（上記テキストからの確認テスト）

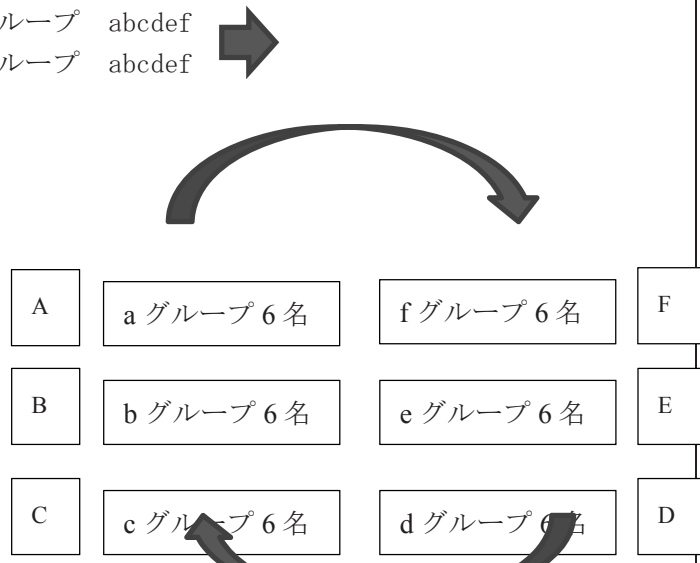
【12. 会場レイアウト】

- 1グループ4名～6名。机は島形式とする
- 前方に講師席、後方にオブザーバー席

進行時刻の目安	單元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
9:00	オリエンテーション	10分 10分	○開講のあいさつ、講師自己紹介 ○グループワーク（自己紹介） ・グループ内自己紹介（学校名、名前、担当教科、教員経験年数）1名1分程度。	テキスト	講義
9:20	第1章 オリエンテーション	15分	○研修のねらいなど ・開発の目的、講座の目標、そして ID とは何かを簡単に説明 授業はどのようにして設計しているか。前任の教員のシラバスをそのまま実行しているのではないだろうか。自分で設計した場合は、どのような考え方・手法で設計しているか。その手順が ID である。ID は教育の効果・効率・魅力を高めることができる。今回は1回の授業（コマシラバス）の設計手法を学ぶ。 ・対象 新任教員とは限らないが、自分で授業を設計した経験があまりない教員が対象。また、経験があっても、自己流に設計しているので自分のやり方の是非を確認したい教員の方が対象。 ・目標 ID の知識・手順を学び、自分の担当する授業の1回のコマシラバスを作成できることを目標とする。		
9:35		30分	○職業実践専門課程と ID との関係を図を使用して説明 ・企業のニーズが、学科・教科・科目の目標となる。教員はそれを学習の目標に落としてから、授業設計を行う。ID の ADDIE モデル（一般的には PDCA）を行うことで実践的な能力を育成することができる。 ○事前課題（テスト）の答え合わせ ・グループ内で答え合わせをする。講師から正解は伝えない。なぜ、この選択肢を正解と考えたか、その思考のプロセスを共有する。後半出てくる「ピア・インストラクション」と似た手法である（それは後半ピア・インストラクションが出たときに伝える） ・最後に講師から正解を伝える（解答を配付） ・講師から質問がないか確認。あれば解説。なければ解説なし。	事前課題 解答	グループワーク
10:05	第2章 インストラク	10分	○ID の概要、シラバスとの関連、ADDIE モデルを紹介 ※事前学習したテキストにはないページ、図のみ紹介(以		講義

進行時刻の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
10:15	シヨナルデザインの概要と必要性 グループワーク	15分	<p>下、ゴシック部分は昨年がない内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ID の利点、事例、様々な理論を紹介 <p>今回とりあげなかった理論も含めて、いろいろな考え方がある。今回扱うことを知らせる。みなさんや、みなさんの学校で実践しているやり方も、(うまくいってれば) インストラクショナルデザインなのだと伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループワーク (情報・課題共有) 10分 ・ 現在どのような手順で授業を設計しているか ・ 悩みはあるかなど情報共有 ・ あとでどんな意見が出たか発表してもらうことを伝える ・ グループ代表者からどんな意見が出たか発表 5分 ※2グループぐらい 		グループワーク
10:30	休憩	10分	～休憩～		
10:40	第3章学習目標の明確化	15分	<p>※事前学習したテキストにはないページ、図のみ紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第3章の目標を提示 ○言葉の定義 (目的、目標) ・ 目的はより高い (遠い) 到達点で、目標はそこに達するために設定するもの到達点。目的は、大目標、「高次の」目標と言う場合もある。 ・ このテキストでは、科目や1回の授業の到達点を「目標」と呼ぶ ○学習目標の明確化 ・ 目標を明確にする3つのポイント 		講義
10:55	ミニワーク	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例示 (江戸文化、Excel の基礎、挨拶) ○演習「学習目標を明確にする」 ・ 個人で10分、グループディスカッション10分 (合意形成の体験として) 		個人・グループワーク
11:20	第4章コマシラバスの作成	10分 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終了後、1問につき1、2グループに発表してもらう。 ※事前学習したテキストにはないページ、図のみ紹介 ○第4章の目標の提示 ○ガニエの9教授事象の考え方で、指導案 (指導方略) を考えるとよい ○コマシラバスフォーマット案と例を紹介 ○ARCS 理論の紹介 (直接指導方略には使用しないが、学習内容を考えるいろいろなシーンで活用できるので紹介する ○メリルの ID 第一原理を紹介。特に、「現実の課題を提示」することが重要。 ○グループワークを紹介。魅力的で理解度を高めるために 		

進行時刻の目安	單元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
11:50	ミニワーク 昼休憩	10分 60分	ぜひ授業で使ってほしい。 事前課題の答え合わせは、ピア・インストラクションと似ている。また、本日最後の演習でポスターツアーを実施することを伝える。 ○質問技法を紹介 ・オープン質問、クローズド質問の組み合わせで質問を考える。1、2名発表。 ～休憩～		個人ワーク
12:50 13:20	演習	30分 20分	○円の演習、または円の面積を教える授業のコマシラバスを作成する。30分 ○グループ内発表 20分 ※1名3分～4分程度 時間があれば、工夫があるコマシラバスをカメラで撮影して、前に投影。本人に簡単に紹介してもらおう。講師からの例を出す。(円を細かく分割して・・・・) http://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1305/14/news085.html (参考サイト) ～休憩～	別紙ワークシートも用意(テキストと同じシート)	個人ワーク
14:00	休憩	10分	～休憩～		
14:10	第5章 各自の実施科目・授業の改善	30分	○自分が担当している科目(予定)の1コマの明確な学習目標(出口)、前提知識(入口)をワークシートに記入する。今やっていることをそのまま書くのではなく、見直し・改善の視点で考える。30分		個人ワーク グループワーク
14:50		10分 30分	※「理解する」「身につける」という言葉は極力使用しないこと。 ○グループ内発表 10分 ○自担当の授業のコマシラバス作成 30分		個人ワーク グループワーク
15:20	休憩	10分	～休憩～		
15:30	演習	30分	○グループ内発表 30分 作成したコマシラバスをメンバーに見せながら1人5分程度で説明。		グループワーク
16:00	第6章まとめ 演習	25分	○IDのふりかえり演習「ポスターツアー」 IDを使ってみて(振り返り・感想・気付き)P47の目標をみながら ・まず自分でまとめる 5分 ・グループで共有・ディスカッション・資料作成 20分	模造紙 マーカー マグネットまたは テープ	個人ワーク グループワーク
16:20	演習	20分	・発表(ポスター・ツアー)		グループ

進行時刻の目安	單元ごとのテーマ・項目	所要時間	内容等	教材等	方式
16:40 17:00		20分	<p>運営の仕方 例) A~F (6人6グループ) P49を参照 2分×6回 ≒20分</p> <p>各グループの模造紙を壁に貼り、新たなグループで1グループずつ壁のポスターの前に立つ。そのポスターを書いたメンバーが内容を他のメンバーに説明する。終了したら、時計回りに移動し、全員が話すまで繰り返し。</p> <p>グループ数とメンバー数が合わない場合は、1グループから2名でも可。</p> <p>A グループ abcdef B グループ abcdef C グループ abcdef D グループ abcdef E グループ abcdef F グループ abcdef</p>  <p>○まとめ 講師からポスターセッションの内容を踏まえ手短かにまとめる。司会より閉会の言葉。 アンケート提出後解散。</p>	アンケート	ワーク

第2章 実証講座受講者アンケート

内容

1. 実証講座の満足度に関してお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

理由

()

2. 講座の目的・目標は理解できましたか？

理解できた どちらともいえない 理解できなかった

理由

()

3. 職業実践専門課程の教員用として講座内容は、適切だったと考えますか？

そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

()

4. 使用教材に関してお聞かせください。

①構成がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

②みやすい そう思う どちらともいえない そう思わない

③役に立つ そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

()

5. 実習(演習)に関してお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

具体的に

()

6. 講師の教え方に関してお聞かせください。

①総合的な満足度 とても満足 満足 普通 やや不満 不満

②説明の仕方がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

③質問への対応よい そう思う どちらともいえない そう思わない

④時間管理がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

()

7. 研修時間に関してお聞かせください。

長すぎる やや長い 丁度良い やや短い 短い

8. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容を自分の授業で実践しようと思えますか。

思う どちらともいえない 思わない

9. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容で、どの部分が一番印象に残りましたか？またその理由をお聞かせください。

①職業実践専門課程とIDとの関係

②明確な目標設定

③コマシラバス作成

④授業計画の見直し

⑤その他 ()
()

10. その他、ご意見・ご要望、感想等自由に記入してください。

()

主催	
法人名	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
会長	学校法人 浦山学園 理事長 浦山 哲郎
アドレス	http://www.zsenken.or.jp/ 